

# わたしたちの意見を市政に

## 牛久市小学生模擬議会

8月10日、市議会議場で「平成23年度牛久市小学生模擬議会」を開催しました。この模擬議会は、牛久市の将来を担う小学生に、地方自治の仕組みを学び、市の政策決定の過程や市議会の運営方法などを体験し理解しながら、牛久市のまちづくりへの参画意識を持ってもらうために行っているものです。市内各小学校の5・6年生16人が参加し、小学生から市政に対し新鮮味あふれるさまざまな質問が出され、市執行部も定例議会同様に熱心に答弁しました。



① 宅美茉佑さん(牛久二小)：震災時の避難所や食料の対策について

市長 避難所では毛布などの準備のほか、シャワーなどの使用ができます。今後は大規模停電の対策として、発電機などの整備も検討しています。食料は、市の防災倉庫にお粥など1万食の備えがあるほか、県内44市町村および埼玉県北本市、宮城県色麻町との相互応援協定などにより物資の支援が可能です。飲み水は、みどり野第一児童公園、刈谷第一児童公園、岡田小学校に消火兼用の100トンタンクと給水車を1台配備しています。



② 下司彩加さん(牛久小)：まちの活性化について

市長 市では、待ちの活性化の一つとして「牛久ワインビレッジ構想」をまとめ、国の重要文化財である「シャトーカミヤ」を中心とした中心市街地の整備計画を作りました。また、牛久駅前では2カ月に一度「どんどん祭り」を開催したり、牛久沼周辺では散策路の整備などを進め、歩いて楽しめる空間づくりを行っていきます。



③ 保井響さん(奥野小)：少子化対策について

市長 市では、待機児童をなくすため保育園整備を計画的に行い、平成24年度にひたち野うしく地区に私立保育園が開園予定です。また、学校の空き教室を利用した新たな保育園を検討しています。その他にも、6年生まで利用可能で土曜日も開設している児童クラブや



④ 齋田莉帆さん(奥野小)：震災への対策について(学校関連)

市長 市内の小中学校耐震補強工事は、来年の中根小学校の工事で全て地震に強い校舎になります。今度は中学校の体育館の工事を行います。なお、学校での避難や待機の際に必要な水は、消火用水兼用のタンクが市内3カ所に設置してあり、飲み水運ぶ車1台が市役所に準備してあります。また、井戸は学校・集会所などにあります。食料は市の防災倉庫に1万人分の備えがあり、学校などの避難所に運び入れます。その他に、防寒用の毛布5000枚、簡易トイレ200基、発電機や投光器なども準備してあります。



⑤ 高橋慶浩さん(牛久二小)：環境問題について

市長 市では、平成20年に「牛久市バイオマスタウン構想」を作り、地域の資源が循環する仕組みに取り組んでいます。市内で集めた廃食用油は、バイオディーゼル燃料に生まれ変わり、今回の震災では支援物資

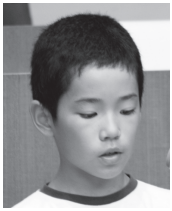


⑥ 飯島美結さん(神谷小)：小児救急医療について

市長 市内の医療機関の数は約2倍に増え、毎日いる小児科医は5人、交替勤務の先生が23人です。夜間などの救急対策は「小児救急輪番制」を実施していて、入院や手術が必要な場合は、土浦協同病院、JAとりで総合医療センター、筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院へ搬送できる医療体制が整備されています。



⑦ 田部博也さん(ひたち野うしく小)：かっぱ祭りと地域のつながりについて



市長 昨年、市の観  
活用について  
田小)：観光資源の

者あんしん電話を開設し、いつでも相談を受け付けていて、本年4月には「成年後見サポートセンター」を設立し、財産の管理などのお手伝いをしています。また、整備中の「見守り台帳」を通して、現在1290人いる一人暮らしや外出のできない高齢者が各地域の「ふれあいサロン」で交流を深めながら、安心して長生きできる街となるよう取り組んでいきます。



市長 市では「高齢  
ついて  
池田あさひさん  
(牛久小)：福祉に

区内の大人が見守りを行っています。市では、安全に登下校できるように、自動車運転マナーのキャンペーンをしたり、交通安全母の会や学区内の大人が見守りを行っています。



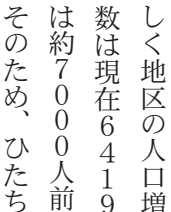
市長 新しい家など  
ついて  
秀島柚夏さん(向  
台小)：交通安全に

を建てる際には、その内容を市で審査しています。また、大きな建物やたぐさんの家を一度に建てるときは、周りの安全にも十分注意し、必要な場所には警備員をつけてもらうよう指導しています。市では、安全に登下校できるように、自動車運転マナーのキャンペーンをしたり、交通安全母の会や学区内の大人が見守りを行っています。



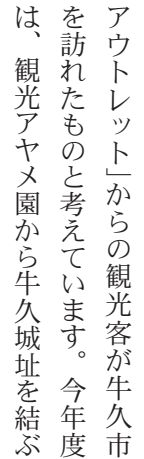
市長 市では、良好  
自然環境を残していくために「牛久  
自然観察の森」や「みどりの保全区」な  
どの事業を進めています。田宮西地区

光客数は約128万人で、年々増えています。これは「シャトーカミヤ」と「牛久大仏」という観光スポットがあること、圏央道の開通や「あみプレミアムアウトレット」からの観光客が牛久市を訪れたものと考えています。今年度は、観光アヤマ園から牛久城址を結ぶ散策路を整備し、観光資源の活用を目指しています。



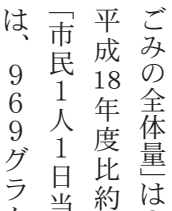
市長 市では「高  
ついて  
中尾衣里さん(中  
根小)：小中学校の  
児童生徒数について

そのため、ひたち野うしく小学校では教室の増築工事を計画しており、下根中学校の教室不足については、平成25年度から岡田小学校の児童が牛久第一中学校の学校区に変更になります。一方、向台小学校などでは児童生徒数が大幅に減少しています。



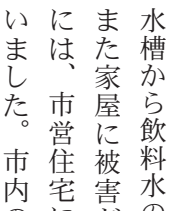
市長 市では、良好  
自然環境を残していくために「牛久  
自然観察の森」や「みどりの保全区」な  
どの事業を進めています。田宮西地区

で計画している近隣公園でも、自然の地形を活用し、森林をできるだけ残した公園にする予定です。また、現在ボランティアが森林内の草刈りを行い、豊かな里山の自然環境を残す取り組みも行われています。



市長 平成22年度  
ごみの全体量は2万8553トンで、  
平成18年度比約5%の削減となり、  
「市民1人1日当たりのごみ排出量」  
は、969グラムと4年連続で減少

市営住宅に緊急入居してもらいました。市内のマンションについては、建築の基準が震度6の地震に耐えられるものですが、余震などの状況に応じて、集会所や小中学校などに避難してもらいます。



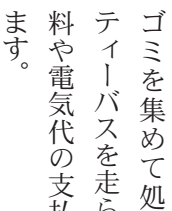
市長 平成22年度  
ごみの全体量は2万8553トンで、  
平成18年度比約5%の削減となり、  
「市民1人1日当たりのごみ排出量」  
は、969グラムと4年連続で減少

との比較で25%の電力削減の目標を掲げ、①みどりのカーテン設置②照明などの使用数を減らす③扇風機の利用④パソコンを省電力に設定⑤涼しい服装での勤務などの取り組みを始めました。また、防犯灯については、LED電球を導入したときの費用や節電効果などを比べて、検討をしています。



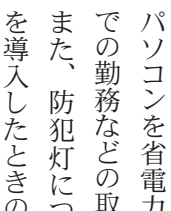
市長 市では、前年  
との比較で25%の電力削減の目標を掲  
げ、①みどりのカーテン設置②照明な  
どの使用数を減らす③扇風機の利用④  
パソコンを省電力に設定⑤涼しい服装  
での勤務などの取り組みを始めました。  
また、防犯灯については、LED電球  
を導入したときの費用や節電効果など  
を比べて、検討をしています。

になりました。これらのごみの処理に約10億600万円の費用が掛かりました。市では、家庭での分別の徹底やレジ袋無料配布中止事業所の拡大、また新たに生ごみ堆肥化モデル事業などを進め、ごみ減量に努めます。



市長 市民の方が市  
に納めていただく税金は、平成23年度  
の見込みで年間約112億円です。こ  
の大切なお金は、ひたち野うしく小学  
校の建設や、市内道路を整備したり、  
ゴミを集めて処理したり、コミュニ  
ティーバスを走らせたり、学校の水道  
料や電気代の支払いなどに使われてい  
ます。

市では、前年との比較で25%の電力削減の目標を掲げ、①みどりのカーテン設置②照明などの使用数を減らす③扇風機の利用④パソコンを省電力に設定⑤涼しい服装での勤務などの取り組みを始めました。また、防犯灯については、LED電球を導入したときの費用や節電効果などを比べて、検討をしています。



市長 市では、前年  
との比較で25%の電力削減の目標を掲  
げ、①みどりのカーテン設置②照明な  
どの使用数を減らす③扇風機の利用④  
パソコンを省電力に設定⑤涼しい服装  
での勤務などの取り組みを始めました。  
また、防犯灯については、LED電球  
を導入したときの費用や節電効果など  
を比べて、検討をしています。

になりました。これらのごみの処理に約10億600万円の費用が掛かりました。市では、家庭での分別の徹底やレジ袋無料配布中止事業所の拡大、また新たに生ごみ堆肥化モデル事業などを進め、ごみ減量に努めます。



市長 市では、前年  
との比較で25%の電力削減の目標を掲  
げ、①みどりのカーテン設置②照明な  
どの使用数を減らす③扇風機の利用④  
パソコンを省電力に設定⑤涼しい服装  
での勤務などの取り組みを始めました。  
また、防犯灯については、LED電球  
を導入したときの費用や節電効果など  
を比べて、検討をしています。

になりました。これらのごみの処理に約10億600万円の費用が掛かりました。市では、家庭での分別の徹底やレジ袋無料配布中止事業所の拡大、また新たに生ごみ堆肥化モデル事業などを進め、ごみ減量に努めます。